

情報数学III講義（第10回）

平成29年12月13日

§ 線積分の復習

高校で学習した積分は次のような形であった（ $f = F'$ のとき）。

$$\int_a^b \underbrace{f(x)dx}_{1\text{次の微分形式}} = F(a) - F(b)$$

複素平面に置ける線積分は（ $\gamma : [a, b] \rightarrow \mathbb{C}$ ）

$$\int_{\gamma} f(z)dz = F(\gamma(b)) - F(\gamma(a))$$

特に γ が閉曲線，つまり $\gamma(b) = \gamma(a)$ のとき，線積分は0になる。

また， $F(z) = z^{n+1}$ （ n は整数）のとき， $F'(z) = (n+1)z^n$ であり， $f(z) = z^n$ は $n \neq -1$ の場合，原始関数と言える。従って，

$$\int_{\gamma} z^n dz = 0$$

と言える。また，

$$\int_{\gamma} \frac{1}{z} dz = 2\pi i$$

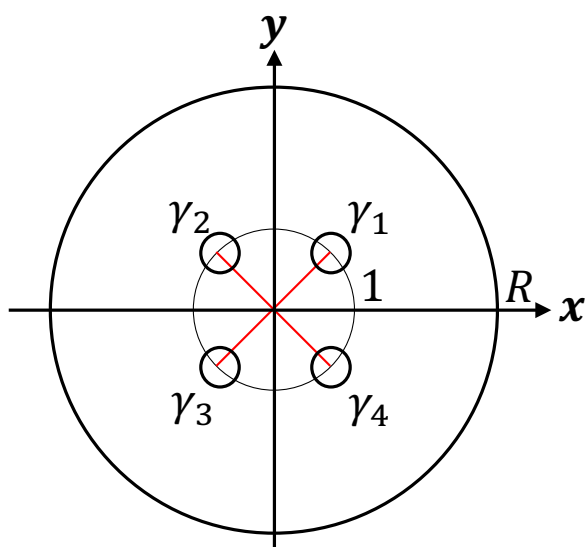
であった。

7 複素関数の利用

これまでに学習してきた内容を元に、様々な計算を試みよう。まずは中心原点、半径が $R (> 1)$ で示される閉曲線 γ (円) を考える。このとき $f(z) = \frac{z^2}{1+z^4}$ とし、

$$\int_{\gamma} f(z) dz = \int_{\gamma} \frac{z^2 dz}{1+z^4}$$

を計算してみよう。



分母が0にならなければ、ストークスの定理よりこの線積分は0になることが容易に導かれる。ただし分母が0になるのは目に見えているので、まずは $1+z^4=0$ となる z を求める。 $\theta \in [0, 2\pi]$ とするとき、 $z = \cos\theta + i\sin\theta$ とすると、ド・モアブルの定理より

$$1 + (\cos\theta + i\sin\theta)^4 = 0$$

$$\cos 4\theta + i\sin 4\theta = -1$$

$\cos 4\theta = -1$ かつ $\sin 4\theta = 0$ を満たすとき、 $\theta = \frac{\pi}{4}, \frac{3}{4}\pi, \frac{5}{4}\pi, \frac{7}{4}\pi$ なので、 $z = \frac{\pm 1 \pm i}{\sqrt{2}}$ (復号任意) となる。いわゆる、この4点が特異点にあたる。

図のように、特異点のまわりに小さな円 $\gamma_1, \gamma_2, \gamma_3, \gamma_4$ を考える。 $\gamma \cup \gamma_1 \cup \gamma_2 \cup \gamma_3 \cup \gamma_4$ の内部では $f(z)$ は正則なので次式が成り立つ。

$$\int_{\gamma \cup \gamma_1 \cup \gamma_2 \cup \gamma_3 \cup \gamma_4} f(z) dz = 0$$

この式はすなわち次を示す.

$$\begin{aligned} & \int_{\gamma} f(z)dz - \int_{\gamma_1} f(z)dz - \int_{\gamma_2} f(z)dz - \int_{\gamma_3} f(z)dz - \int_{\gamma_4} f(z)dz = 0 \\ \Leftrightarrow & \int_{\gamma} f(z)dz = \int_{\gamma_1} f(z)dz + \int_{\gamma_2} f(z)dz + \int_{\gamma_3} f(z)dz + \int_{\gamma_4} f(z)dz \\ & \int_{\gamma} f(z)dz = \int_{\gamma_1} f(z)dz + \int_{\gamma_4} f(z)dz \end{aligned}$$

特異点を第一象限から順に $\omega_1, \omega_2, \omega_3, \omega_4$ とする. 上式の右辺の線積分を求めるたい. ここで, 分母と分子は次のように変形ができる.

$$\begin{aligned} (\text{分母}) \quad 1 + z^4 &= (z - \omega_1)(z - \omega_2)(z - \omega_3)(z - \omega_4) \\ (\text{分子}) \quad z^2 &= a_0 + a_1(z - \omega_1) + a_2(z - \omega_1)^2 \end{aligned}$$

これらを用いて式を変形する.

$$\begin{aligned} & \int_{\gamma_1} \frac{z^2 dz}{1 + z^4} \\ &= \int_{\gamma_1} \frac{a_0 + a_1(z - \omega_1) + a_2(z - \omega_1)^2}{(z - \omega_1)(z - \omega_2)(z - \omega_3)(z - \omega_4)} dz \\ &= \int_{\gamma_1} \frac{a_0 dz}{(z - \omega_1)(z - \omega_2)(z - \omega_3)(z - \omega_4)} \\ & \quad + \int_{\gamma_1} \frac{a_1(z - \omega_1) dz}{(z - \omega_1)(z - \omega_2)(z - \omega_3)(z - \omega_4)} \\ & \quad + \int_{\gamma_1} \frac{a_2(z - \omega_1)^2 dz}{(z - \omega_1)(z - \omega_2)(z - \omega_3)(z - \omega_4)} \end{aligned}$$

ここで, 下線を引いた2つの部分は約分によって分母から $(z - \omega_1)$ が消えるため, 値は0になる. さらに, $g(z) = \frac{a_0}{(z - \omega_2)(z - \omega_3)(z - \omega_4)}$ と定めると, コーシーの積分公式を用いることで上式は次のように変形できる.

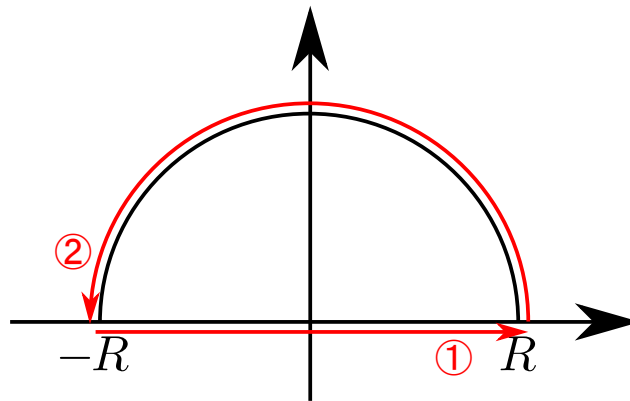
$$\int_{\gamma_1} \frac{g(z)}{z - \omega_1} dz = 2\pi i g(\omega_1)$$

ここで $g(\omega_1)$ とは

$$\begin{aligned} g(\omega_1) &= \frac{a_0}{(\omega_1 - \omega_2)(\omega_1 - \omega_3)(\omega_1 - \omega_4)} \\ &= \frac{a_0 + a_1(\omega_1 - \omega_1) + a_2(\omega_1 - \omega_1)^2}{(\omega_1 - \omega_2)(\omega_1 - \omega_3)(\omega_1 - \omega_4)} \\ & \quad (1 + z^4 \text{を } (z - \omega_1) \text{ で割る}) \\ &= \frac{z^2}{(z - \omega_2)(z - \omega_3)(z - \omega_4)} \end{aligned}$$

最後に出てきた $\frac{z^2}{(z-\omega_2)(z-\omega_3)(z-\omega_4)}$ を関数 $h(x)$ と置いた場合、 $h(\omega_1)$ の値に 2π を乗ずることで $\int_{\gamma_1} \frac{z^2 dz}{1+z^4}$ が求められる。これと同様の手段で $\int_{\gamma_2} \frac{z^2 dz}{1+z^4}$, $\int_{\gamma_3} \frac{z^2 dz}{1+z^4}$, $\int_{\gamma_4} \frac{z^2 dz}{1+z^4}$ を求めることで、最終的に $\int_{\gamma} f(z) dz$ を求めることができる (→レポート課題 I へ)。

また別の問題を考えよう。中心が原点、半径が十分に大きい R の半円を考える。この半円における線積分を考える。図のような半円の経路 $\gamma = \gamma_1 + \gamma_2$ を設定する。(①が γ_1 に、②が γ_2 にあたる)。



ここで実軸上の線積分 (γ_1) は $\int_{-R}^R \frac{x^2}{1+x^4} dx$ となり、また半円の円周部の線積分 (γ_2) は $\int_{\gamma_2} \frac{z^2}{1+z^4} dz$ と表される。なお、この和は計算すると

$$\int_{-R}^R \frac{x^2}{1+x^4} dx + \int_{\gamma_2} \frac{z^2}{1+z^4} dz = \frac{\pi}{\sqrt{2}}$$

となる。

次に、複素数で定義された関数 $f(z) = \frac{z^2}{1+z^4}$ を考え、 $R \rightarrow \infty$ を考えよう。ここで γ 上で $|f(z)| \leq M$ のとき、 L を γ の長さとする以下が成り立つ。

$$\left| \int_{\gamma} f(z) dz \right| \leq ML$$

この不等式を考慮すると、 $\frac{z^2}{1+z^4}$ については $M = \frac{R^2}{R^4}$ となり半円の円周 πR より、 $\frac{\pi}{R}$ が得られる。このとき、 $R \rightarrow \infty$ とすると、 $\frac{1}{R} \rightarrow 0$ となるため、積分路

② (γ_2) が 0 に近づくことがわかる.

ちなみに以下のような考え方もできる.

$\gamma_2 : \theta \in [0, \pi] \rightarrow R(\cos \theta + i \sin \theta)$ とすると

$$\begin{aligned} \left| \int_{\gamma_2} \frac{z^2 dz}{1+z^4} \right| &= \left| \int_0^\pi \frac{R^2(\cos \theta + i \sin \theta)^2}{1+R^4(\cos \theta + i \sin \theta)^4} \frac{dz}{d\theta} d\theta \right| \\ &= \left| \int_0^\pi \frac{R^3(\cos \theta + i \sin \theta)^2(-\sin \theta + i \cos \theta)}{1+R^4(\cos \theta + i \sin \theta)^4} d\theta \right| \\ &\leq \frac{R^3}{R^4-1} \\ &= 0 \quad (R \rightarrow \infty) \end{aligned}$$

以上より,

$$\int_{-R}^R \frac{x^2}{1+x^4} dx + \int_{\gamma_2} \frac{z^2}{1+z^4} dz = \frac{\pi}{\sqrt{2}}$$

は $R \rightarrow \infty$ のとき, 左辺の第 2 項が 0 になり,

$$\int_{-\infty}^{\infty} \frac{x^2}{1+x^4} dx = \frac{\pi}{\sqrt{2}}$$

となる (→レポート課題 II へ).

次の問題は

$$\int_0^\infty \frac{dx}{1+x^2}$$

としよう. $f(z) = \frac{1}{1+z^2}$ を考えるとき, 関数 $f(z)$ は偶関数であるため, 題意は

$$\frac{1}{2} \int_{-\infty}^{\infty} \frac{dx}{1+x^2}$$

に等しい. ということは先ほどの問題のように半円を考えることで, 直線部と円周部 γ_2^R の線積分について

$$\int_{-R}^R \frac{dx}{1+x^2} + \int_{\gamma_2^R} \frac{dz}{1+z^2}$$

となる．先ほどと同様に $R \rightarrow \infty$ のとき，円周部の線積分（第2項）は0になり，このとき，

$$\int_{-\infty}^{\infty} \frac{dx}{1+x^2} = \int_{-\infty}^{\infty} \frac{dx}{1+x^2} = \pi$$

と計算される（→レポート課題 III へ）．

次に

$$\int_{\gamma} \frac{dz}{(z^2 + a^2)^2} \quad (a > 0)$$

を考えよう．まず分母が0になるとき， $z = \pm ai$ である．したがって，次のように変形できる．

$$f(z) = \frac{1}{(z^2 + a^2)^2} = \frac{1}{(z - ai)^2(z + ai)^2}$$

ここで， $\frac{1}{(z + ai)^2}$ については以下のように冪級数に展開ができる．

$$g(z) = \frac{1}{(z + ai)^2} = b_0 + b_1(z - ai) + b_2(z - ai)^2 + \dots$$

となる．これを用いると $f(z)$ は以下のように書き換えられる．

$$f(z) = \frac{b_0}{(z - ai)^2} + \frac{b_1(z - ai)}{(z - ai)^2} + \frac{b_2(z - ai)^2}{(z - ai)^2} + \dots$$

これを計算すると，

$$\begin{aligned} & \int_{\gamma_1} f(z) dz \\ &= \int_{\gamma_1} \frac{b_0}{(z - ai)^2} dz + \int_{\gamma_1} \frac{b_1}{z - ai} + \int_{\gamma_1} b_2 dz + \int_{\gamma_1} b_3(z - ai) dz + \dots \end{aligned}$$

ここで，下線が引かれていない全ての項には原始関数が含まれているため，全て値が0になる．残った下線部の項については $2\pi i b_1$ という値が求められる．なお，関数 $g(z)$ を微分することで，残る項を調整することができる．例えば b_1 を求めたければ $g(z)$ を1階微分すればよい．

$$g'(z) = b_1 + 2b_2(z - ai)$$

- レポート課題 IV, V は, 被積分関数が重解を持つかどうかで違いが生じる.

§ 今週のレポート課題

I.

$$\int_{\gamma} f(z)dz = \int_{\gamma} \frac{z^2 dz}{1+z^4} \text{ を計算せよ.}$$

II.

$$\int_{-\infty}^{\infty} \frac{x^2 dz}{1+x^4} \text{ を計算せよ.}$$

III.

$$\int_0^{\infty} \frac{dx}{1+x^2} = \frac{\pi}{2} \text{ であることを示せ.}$$

IV.

$$\int_{\gamma} \frac{dz}{(z^2+a^2)^2} \quad (a > 0) \text{ を計算せよ.}$$

V.

$$\int_0^{\infty} \frac{dx}{(x^2+a^2)^2} = \frac{\pi}{4a^3} \quad (a > 0) \text{ であることを示せ.}$$

今回のレポート提出について

- 期日：2017年12月22日（金）
- 提出場所：理学系事務室（自然B棟2階）のレポートBOXへ